

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「せつめいする 文しょうを かこう」 教材名「じどう車ずかんを つくろう」

2 単元の目標

- (1) 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解する。（〔知識及び技能〕(2)ア）
- (2) 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。（書くこと B(1)イ）
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（第1学年及び第2学年の目標(3)）

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）	①「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（B(1)イ）	①進んで、説明の順序を考え、学習の見通しをもって、自動車の「しごと」と「作り」を説明するカードを書こうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

本単元は、直前に読んだ説明文「じどう車くらべ」の、「しごと」を書いてから、そのための「作り」を書く説明の順序を使って、自分で選んだ自動車を説明するカードを書き、学級で一冊の図鑑にまとめる単元である。読む学習で順序を確かめたばかりなので、学習指導要領第1学年及び第2学年のB(1)イの、事柄の順序に沿って構成を考える学習を、子どもが手本を持った状態で働かせられる。「しごと」と「作り」は、しごとのためにその作りがあるという関係でつながっていて、〔知識及び技能〕(2)ア「共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること」の学習にもなる。図鑑や乗り物の本から紹介したい自動車を選ぶ活動は、学校図書館を使う学習（第3の2(3)）と結び付く。B(1)イは第2学年でも扱い、説明する文章の順序を考える学習を重ねる。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、「じどう車くらべ」で作った表（自動車・しごと・作り）を教室に残し、書く時に必ず指して確かめさせる。読む学習で使った表を書く学習の組み立てメモにそのまま使うことで、順序を子どもが自分で決められるようにする（B(1)イ）。次に、図鑑から書き写すのではなく、「しごと」と「作り」に当たる事柄を見付けて、短い言葉でメモさせてから文にする。三つ目に、書いたカードは学級で一冊の図鑑にまとめることを最初に伝え、読む人（学級の友達や家の人）を意識させる。カードは、「しごと」と「作り」が順に書かれ、二つの文のつながりの言葉がある物を「おおむね満足できる」状況、作りを二つ以上、しごとと結び付けて書いている物を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画（全5時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○「じどう車くらべ」で学んだ、「しごと」と「作り」の順序と、二つの文のつながりの言葉を思い出す。 ○学習課題「じどう車しょうかいカードを書いて、クラスのじどう車ずかんを作ろう」を確かめる。 ○図鑑や本を見て、紹介したい自動車を選ぶ。	態①（発言）
第2次	2	○選んだ自動車の図鑑や本を見て、「しごと」と「作り」に当たる事柄を見付け、組み立てメモに短い言葉で書く。	知①（組み立てメモ）
	3 （本時）	○組み立てメモを見て、「しごと」→「作り」の順に並べ、二つの文のつながりの言葉を入れて、カードの文を考えて書く。	思①（カード・組み立てメモ）
	4	○書いた文を声に出して読み返し、順序と言葉を確認して清書する。自動車の絵をかき添える。	態①（見直し）
第3次	5	○カードを交換して読み、知ったことと、いいなと思ったところを伝え合う。 ○図鑑のページの並べ方を話し合ってみて、学習を振り返る。	知①（発言） 態①（振り返り）

6 本時の指導 (3/5)

(1) 本時の目標

選んだ自動車の「しごと」と「作り」を、「しごと」から「作り」の順に並べ、二つの文のつなぎの言葉を入れて、説明の文を書くことができる。(B(1)イ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 「じどう車くらべ」の表を見て、説明の順序を確認する。 ○「教科書の自動車は、どんな順番で説明されていましたか」 2 前時に書いた組み立てメモを見る。 【めあて】「しごと」と「つくり」の じゅんに、じどう車の せつめいを かこう。 〈予想される児童の反応〉 ・はじめに「しごと」、次に「作り」の順番だった。 ・「しごと」と「作り」の間に、つなぐ言葉があった。	・「じどう車くらべ」で作った表を黒板に貼る。取り上げた自動車の名前とつなぐ言葉は、使う教科書に合わせて先生が書き入れる。 ・先生が書いた見本のカード（教科書に出てこない自動車）を一枚示す。
展開 (分)	3 組み立てメモの「しごと」と「作り」に、①②の番号を付ける。 ○「どれを先に書くと、読む人に分かりやすいでしょう」 4 つなぐ言葉を入れて、カードの下書きを書く。 5 隣の友達と下書きを見せ合い、順序とつなぐ言葉を確認する。 ○「友達の説明は、しごとから書いてありますか。作りとつながっていますか」 6 直した方がよい所を書き直す。 〈予想される児童の反応〉 ・しごとを先に書くと、なぜその作りなのかが分かる。 ・作りが二つあるから、二つとも書きたい。 ・作りを先に書いてしまった。 ・つなぐ言葉が抜けている。 ・図鑑の文を全部写して、長くなった。	・メモの事柄が多い子には、「いちばん知らせたい作り」に丸を付けさせ、それから書かせる。 ・書き出せない子には、文の型の用紙（自動車の名前・しごと・つなぐ言葉・作りを順に入れる）を渡し、メモの言葉を入れさせる。 ・作りを先に書いた子には、表の自動車の説明の順を指で追わせ、自分の文と比べさせる。 ・図鑑の文をそのまま写す子には、メモの短い言葉だけを見て書くように声をかける。 ・早く終わった子には、作りをもう一つ足して、しごととどうつながるかを書かせる。 ・文末は「です」「ます」にそろえる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （分）	7 何人かが下書きを読み、順序とつなぐ言葉を確認める。 【まとめ】しごとを さきに かくと、よむ ひとに わけが よく わかる。 8 振り返りを書く。	・まとめは子どもの言葉で作り、上の文は例として扱う。 ・振り返りは「じゅんばんに きを つけて かけたか」と「ともだちの せつめいで いいと おもった ところ」の二つ。 ・次時は、声に出して読み返して清書することを伝える。 ◎思①（カード・組み立てメモ）

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ書く。右端に日付・題名・めあて（ひらがな、分かち書き）。その左に「じどう車くらべ」の表（自動車・しごと・作り）を貼り、しごとに①、作りに②の札を付ける。中央に先生の見本のカードを貼り、しごとの文、つなぐ言葉、作りの文に色を分けて線を引く。その左に、子どもの下書きで見付けた「よい順序」と「つなぐ言葉」の例を並べる。左端にまとめ。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」（@mie_ai_katsuyo）
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ



AI三重